



自立へ向けて たまには痛い目にあわせましょう

子どもの自立のために「困る経験」が大切であることは前号で書かせていただきました。しかし、困っている子どもには、つい手を貸したくなるのは親心です。親が手を貸すかどうかは、子どもの困っている内容によりますし、子どもから「助けてのお願い」があるかないかにもよります。

親の関わり方の一つの例です。女の子がぬいぐるみを大切にしていたのですが、見当たりません。「お母さん、ぬいぐるみ知らない？」と母親に聞いてきました。実は、母親は掃除をしたときに、そのぬいぐるみが子ども部屋の机の下に転がっていたのを知っています。こういうとき、母親はどうしたらいいと思いますか。



子どもの自立を願うのであれば、「ぬいぐるみ？ 今日は見えないよ。」と、あえて知らないふりをお勧めします。「机の下にあったよ。」や「ほらここにあるじゃないの。だからちゃんと片づけをしなさいって言ってるでしょ。」などと、教えないようにします。親が簡単に正解を言ってしまうと、すぐに親に頼る子になってしまいます。

大切なものをなくしてしまったとき、苦労しながら探してやっと見つかると、「こんなことにならないように置き場所を決めよう」と子ども自ら考えたり、どうしても見つからなくて困ったりする経験をしたほうが、子どもの自立につながります。もし「一緒に探して。」と「助けてのお願い」があったら、親は探すふりだけで構いません。気づかないふりをして「私がこっちの部屋を見てあげるから、あなたは自分の部屋を探してみなさい。」と誘導するにとどめます。

大切なものをなくして悲しんでいる子どもを見ると、親としてかわいそうだと感じるのはよくわかります。「ここにあるよ。」と教えてあげたり、なくしたものを新しく買ってやったりしたくなるものです。しかし、目先のかわいそうを優先してしまうと、ものをなくさないための術を自分なりに見つけ、どうすれば探しものが見つかるかということをおぼろげに学べません。目先のかわいそうを優先してしまうことで、将来的にもっとかわいそうな状況をつくりだしているともいえるのです。

もう一つの例です。母親と子どもで「ゲームは一日1時間まで。それを破ったら次の日はゲーム禁止。」という約束をつくりました。ところが、早々に子どもが約束を破ってしまい、ペナルティを科すことになりました。翌日、子どもは涙ながらに母親に「お願い、どうしてもゲームがしたい…」と泣きついてきました。どうすれば子どもの自立につながるといいますか。

子どもが何を言っても、約束通りペナルティを科すべきです。子どもに「約束を守らないと損をする」



「そのときの楽しさに流されたら損をする」という痛い目にあう体験をさせることが肝心です。「泣いているのはかわいそう」ではなく、「約束をないがしろにしてガマンを経験できないことのほうがかわいそう」と、将来的なかわいそうを考えられる親であれば、子どもを自立させることができます。

(参考)「子どもには、どんどん失敗させなさい」(水野達朗:著)

自立へ向けて ○○していいですか？ という言葉

子どもたちはよく教師に「○○していいですか？」と聞いてきます。この言葉は本来、自分で判断できないことを、相手に判断してもらい、許可を求める意味で使います。ところが子どもたちは、その意味ではあまり使っていません。ためしに「ダメ」と言うと、子どもたちは困った顔をします。「いいよ」と返事をもらえるものとして聞いていることが多くあるのです。これは、その子の自信のなさの表れでもあります。教師からの「お墨付き」をもらってから行動をしたいがための確認の意味で使うことが多いように思います。

よく聞く言葉に「先生、トイレへ行っていいですか？」があります。トイレへ行っていいかどうかは教師が決めるものではありません。行く、行かないの判断は自分でするものです。「トイレへ行っていいですか？」と聞かれて「ダメ」と言う教師はいません。トイレへ行きたいという子を行かせなかったとなれば体罰です。逆に「ダメ」と言ったらどうするつもりでしょう。多くの場合、「トイレへ行かせてください」と聞かれれば、教師は「どうぞ」と言うはずです。

私は担任をしていたとき、年度の始めは、子どもが自分で判断できると思う場面では、始めはそのたびに「ダメって言ったらどうする」などのやり取りをしていたのですが、だんだん面倒くさくなって、年度の途中からは、「来年にして」「来年になったらいいよ」と茶化して答えていました。例えば…

その1 調べる学習をするときに、記録用紙を1枚ずつ配付し、2枚目がほしい子は、教卓の上に余りを置いておくから、もっていくようにと連絡をして授業を始めました。しばらくするとその用紙を取りに来た子が、「先生、もらっていいですか？」と私に聞いてきました。勝手にもって行っていいと伝えたのに、この言葉ですので「来年にして」と答えておきました…。まあ、黙ってもっていくのも何ですので、「先生、もらっていきます」くらいの声かけは礼儀かもしれませんが…。

その2 帰りの会の司会の担当の子が「先生、帰りの会を始めていいですか？」と聞いてくるのがよくありました。6校時が終わり、帰りの支度も全員ができていて、当然、始めていい状況なのにこの言葉が出てくるのです。こんなときは「来年になったらいいよ」と答えます。すると、ちょっと困った顔をしますが、自分で判断して、「先生、帰りの会を始めます」と言い直します。私が「どうぞ」と言って、帰りの会が始まるようなことを繰り返しました。

これらは、自分で判断できる場面や放っておいても構わない場面に限ります。緊急の場合は、こういうふざけた対応はしません。しかし、自分で判断できることならば、いちいち教師に判断を求めずに、自信をもって行動してほしいと思っています。それが間違えた結果になってしまったとしてもいいと思うのです。



おまけ1 前任校でタクシーに乗って4年生と出かけたときのこと。そのタクシーの中で、4年生が、「水筒飲んでいいですか？」と私に聞いてきた。私は「水筒は飲んじゃ困る」と答えた。タクシーの中だからダメなのかあという顔をする子に、「水筒の中身は飲んでいいけど、水筒を飲んじゃったら大変なことになるぞ」

おまけ2 黒板の管理の当番の子どもが「先生、黒板消していいですか？」とよく言ってきた。これには「黒板を消されちゃ困る。黒板に書いてある字を消すならお願いします」と繰り返した。
…性格がだいぶひねくれているのでしょうか？

☆突然ですが、言葉についての問題です。答えは次号に掲載します。

次の四字熟語やことわざ、言い回しは間違っています。正しく直してください。

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 汚名挽回 | ⑥ 責任転化 |
| ② 舌づつみを打つ | ⑦ 歯にころもを着せぬ |
| ③ さいさきが悪い | ⑧ 孫にも衣装 |
| ④ 時間を裂く | ⑨ 絶対絶命 |
| ⑤ 所用時間 | ⑩ 危機一発 |

